

道路

道路交通法改正に異議あり 自転車は道を走らばいいのか

橋本久雄議員(緑ネ) ①改正案についての見解は。

②歩道を自転車通行可にする場合の基準は。

③自転車の安全走行キャンペーンを全市的に行うのは。

市長 ①自転車通行に関する無秩序な状態を改めるためと受けとめている。

②歩行者と自転車の通行状況、歩道幅員と自動車の交通量等を総合的に考慮し規制していると交通管理者から聞いている。

③毎月2回、マナーアップキャンペーンを実施しているが、5月に予定しているキャンペーンでは全市的に広く参加を呼びかけたい。

都道小平駅西通りと小平高校 通りの交差点の交通安全対策

原 邦彦議員(公明) ①信号機を早急に設置できないか。

②交差点の再点検とルネこだいら駐車を含めた安全対策を行い、二度と交通事故が起きないようにしてほしいがどうか。

③小平高校通りに大型バスや工事車両などが駐車しているが改善に向けた検討は。

市長 ①都道の管理者とも協議の上、交通管理者に申し入れを行いたい。

②今後、交通管理者や都とともに、交差点の道路線形や安全対策について協議を行う。

③駐車禁止の看板を設置し、小平警察署に指導取り締まりを

依頼しているが、市も連携して車両の駐車防止に努めたい。

市道のU字溝を L字溝に

小林秀雄議員(フオ) ①U字溝を設置している道路の数とその距離は。

②応急の処理として、U字溝にふたをかける場合の費用は。

③バリアフリー対策をすべきと考えるがどうか。

市長 ①64路線あり、約1万2千円である。

②道路面等の改修を伴わずふたを設置するだけの場合、1辺当たり約5千円かかる。

③暫定的に交差点や曲がり角等にU字溝をかき上げて、ふたがけなどの安全対策を講じている。

たかの街道及び水車通りの道路 整備と交通安全対策について

桜田 誠議員(公明) ①たかの街道の道路整備の現状は。新しい動きはあるのか。

②水車通りの交通渋滞解消策は。また、たかの街道との交差点の信号機を時差式にする方法はないのか。

市長 ①水車通りから府中街道へ水車通りとたかの街道の交差点



付近までの区間を道路拡幅すべき路線と位置づけ、用地買収の交渉を行っているが、隣接地権者の理解が得られていない。創価学園の改修工事に伴い、学校用地の一部を歩道として無償貸与を受ける予定である。

②新小川橋からたかの街道交差点までの各信号機の時間調整を交通管理者に提案したい。なお、時差式信号機については危険が大きいと聞いている。

小平第十小学校北門の 通路の復活を

小林秀雄議員(フオ) ①北門の東側の通路が閉鎖された経緯と時期は。

②土地所有者と話し合いはできないか。

③話し合いが不調の場合、道路と平行して流れる砂川用水にふたをして通路にできないか。

④便利道として利用したい旨の要望があるがどうか。

市長 ①所有者の好意により宅地の一部が提供されていたが、土地を有効活用することから、平成11年10月に閉鎖された。

②協力依頼をしたが、断られており難しい。

③隣接住民の同意が得られず、現在のところ困難と考える。

④困難と考える。

が必要ではないか。

③制度の周知や窓口対応の改善が必要ではないか。

市長 ①地域包括支援センターの充実を図り、成年後見活用あんしん生活創造事業を実施する予定である。市報や社協などによりPRしていく。

②当面は都の養成研修の受講者の公募、推薦をするが、将来的には市による養成研修なども検討する予定である。

③今後とも一層の職員の研修に務め、市民サービスの充実を図りたい。

ひとり住まいの 高齢者対策の充実を

佐藤 充議員(共産) ①65歳以上の独居者数は。

②独居対策とその課題は。

③市と自治会等の連携は。

市長 ①5千2百90人である。

②緊急通報システム、電話訪問サービス等を実施しているほか、高齢者が住み込まれた地域で自立した生活を続けられるよう、見守りネット構築のための実態調査を実施している。課題は各種サービスの利用者減少と、個人情報である名簿の活用範囲等である。

③自治会などで地域での仕組みづくりや見守り、助け合いなどを検討する際に、情報提供などの支援を行いたい。

介護保険制度の改善を

木村まゆみ議員(共産) ①介護ベッドや車いすなどが介護保険適用となるよう、市の独自基準でできないか。

②介護はコミュニケーション

労働であり、福祉の心が最も必要とされる仕事と考えるが市長の認識は。

市長 ①変更することは困難であるが、激変緩和措置として介護ベッドの購入費助成制度を実施している。このほかの制度は難しい。

②コミュニケーションをとりながら、心のこもったサービスが提供されるべきである。同時に介護保険制度の運用は、客観的な基準に基づき、公平性を確保することも必要と考える。

③今後の高齢者用住宅の運営方法は。高齢者向け住宅の設置計画を策定する考えはないか。

市長 ①シルバーピアは65歳以上の高齢者が住宅に困っている人が安全かつ快適な日常生活を過ごせるよう建設された集合住宅である。13か所に359人が入居しているが、高齢化が進んでいるのが現状である。

シルバーピアの 現状と今後について

浅倉成樹議員(公明) ①入居者に現状をどう見ているか。

②今後の高齢者用住宅の設置計画を策定する考えはないか。

市長 ①シルバーピアは65歳以上の高齢者が住宅に困っている人が安全かつ快適な日常生活を過ごせるよう建設された集合住宅である。13か所に359人が入居しているが、高齢化が進んでいるのが現状である。

②入居者の高齢化に伴う生活協力員の任務の見直しや、地域包括支援センターとの連携を図っていきたい。計画策定については住宅ストックは量的に充足しており、都営住宅の建てかえも終了しているため具体的な増設計画はない。

③新法で位置づけている徒歩による移動の経路とは異なるが、重要な課題と考えている。

④当面は駅構内を目的地に計画を進めるが、駅周辺も含めた新法の活用を研究していく。

バリアフリー新法の具体化で 小平のまちづくりを

木村まゆみ議員(共産) ①面の整備等のバリアフリーについての考えは。

②鷹の台駅のバリアフリー化に新法を活用できないか。

住宅である。13か所に359人が入居しているが、高齢化が進んでいるのが現状である。

②入居者の高齢化に伴う生活協力員の任務の見直しや、地域包括支援センターとの連携を図っていきたい。計画策定については住宅ストックは量的に充足しており、都営住宅の建てかえも終了しているため具体的な増設計画はない。

③新法で位置づけている徒歩による移動の経路とは異なるが、重要な課題と考えている。

④当面は駅構内を目的地に計画を進めるが、駅周辺も含めた新法の活用を研究していく。

障害者地域自立生活 支援センターは事業の充実を

橋本久雄議員(緑ネ) ①センターにおける事業の内容は。

②常勤2人、非常勤1人の体制で事業を行えるのか。

③開所時間は。

④なぜ家賃補助がないのか。



鷹の台駅

②当面は駅構内を目的地に計画を進めるが、駅周辺も含めた新法の活用を研究していく。

③新法で位置づけている徒歩による移動の経路とは異なるが、重要な課題と考えている。

④当面は駅構内を目的地に計画を進めるが、駅周辺も含めた新法の活用を研究していく。

掲載分以外の 質問項目

【行政一般】
・電子メールによる問い合わせ等の取り扱いについて
【防災・安全】
・個人住宅などに耐震補強工事の助成ができないか
【福祉】
・市は認知症やその予防について積極的な対策を講ずるべきである

一般質問のまとめ

平成15年6月定例会～平成19年3月定例会

質問者数・件数			項目別件数	
定例会名	質問者数	質問件数	項目	件数
15年6月	23	64	行政一般	150
15年9月	21	55	都市整備	127
15年12月	24	61	教育・文化	116
16年3月	24	60	福祉	92
16年6月	23	54	道路	81
16年9月	21	56	公共施設	56
16年12月	22	50	環境・上下水	53
17年3月	21	51	児童・女性	53
17年6月	19	45	防災・安全	37
17年9月	20	45	公園・用水	37
17年12月	21	54	産業振興	30
18年3月	20	50	医療・健康	21
18年6月	20	51	合計	853件
18年9月	21	52		
18年12月	20	53		
19年3月	20	52		
合計	340	853		
平均	21.3人	53.3件		

項目別割合

